

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 29 年度第 12 回）議事録

日 時：平成 30 年 3 月 23 日（金） 10：00～11：50

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第 1 会議室

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、門田守人理事、南砂理事、松本洋一郎理事、児玉安司理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

I. 前回（平成 29 年度第 11 回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を南理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 平成 30 年度予算等

資料に沿って報告され、了承された。

主な意見等

- ・事務部門の機能向上のためには、人材の育成が必要。今後は、出向人事だけでなく NCC の独自採用を進めていくべき。
- ・NCC 内の事務部門におけるキャリアパスをはっきりさせ、時間をかけてでも、内部で専門家を育てていくことが重要。
- ・医療連携を含む医療経営や医療情報について、人材確保の重要性がどの医療機関でも増しており、競合している。他方、新たな無期転換制度を背景として、事務職員が固定化されがちな傾向もある。
- ・BCG の提案を受けて、事務部門の職員が自ら変えようという意識改革を行うことが重要。
- ・今後の状況変化に応じ、財政見通しや予算枠組等を NCC が自ら作成し見直すことができるようにしてほしい。
- ・予算において、NCC の裁量で判断できる余地を拡大することが大切。そのためには、既存のことにも手をつけていくことが必要ではないか。
- ・人員については、機能的に整理した上で増員したり効率化に取り組むことにより、全体的な負担低減につながる面がある。NCC の知識・智恵を蓄積する仕組みを構築していくことが重要。

2. 平成 30 年度業務運営計画

資料に沿って報告され、了承された。

3. がんゲノム情報管理センターの設置

資料に沿って報告され、了承された。

主な意見等

- ・データベースの構築・運用にはエキスパートが必要であり、再教育を含めた人材育成が重要。
- ・個人情報の問題など、法律面の手当ても必要。
- ・臨床研究中核病院や次世代医療基盤法など、既存の枠組みとは違う新しい世界につながり得るのではないか。

III. 報告事項

1. 内閣府戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) (AI ホスピタルによる高度診療・治療システム)

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・未来の医療を作ることは重要なミッションであり、NCC として負荷がかかる可能性を含め、全体で取り組むべき課題。
- ・将来に向けて重要な取組であり、しっかり進めてほしい。

2. がんゲノム医療連携病院

資料に沿って報告された。

3. 希少がん中央機関

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・病理の専門医は少ないので、事前のデータベース化、AI 活用など、確度を上げる取組が必要ではないか。
- ・病理学会では知識の蓄積や人材育成を行うことになっており、タイアップして進めていくことが重要。AI について、まずは診断基準などの情報収集から始める必要がある。

4. 認定臨床研究審査委員会 (変更報告)

資料に沿って報告された。

5. 日中韓がん対策ワークショップ

資料に沿って報告された。

6. LC-SCRUM-Japan (新しい薬剤耐性メカニズム発見等)

資料に沿って報告された。

7. 8K 技術を用いた新腹腔鏡システム

資料に沿って報告された。

主な意見等

- ・個々の技術進歩により前進することの重要性は間違いないが、「限界はどこまでか」ということを意識することも重要。

8. 職員の働き方改革

資料に沿って報告された。

9. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

10. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

11. 広報実績

資料に沿って報告された。

12. 2月分月次決算等

資料に沿って報告された。